

大鹿村中央構造線博物館たより 146号



2021年7月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

博物館の^{さぶろく}三六災害関連展示

昭和36年6月29日の大西山の崩壊などを引き起こした集中豪雨災害、通称^{さぶろく}三六災害から60年が過ぎました。伊那谷周辺の各地域では、災害を忘れてしまわないために、イベントや特設展などが行われているようです。中央構造線博物館は小さな建物のため、特別展を開催するようなスペースはありませんが、三六災害関連書籍コーナーを特設してみました（写真1）。7月末頃まで設置しておきますので、ご自由に閲覧ください。

中央構造線博物館には、三六災害関連の展示が常設されています。1階玄関入って右手の窓からは、今もなお、岩肌がむき出しになっている大西山の崩壊跡地を眺めることができますし、傍らに大西山関係の展示パネルもあります。また2階の「山崩れと砂防」に関する展示室では、36災害の映像を見ることもできます（写真2）。2階に行くには少し急な階段を登らなくてはなりませんが、今冬にバリアフリー化の改修工事をして、2階の展示は、1階の新設される部屋に移動することになりましたので、来年度からは階段を登らなくて済むようになる予定です。



写真1 三六災害関連書籍コーナーを特設しました！



写真2 博物館 2階の映像視聴コーナー

なお、博物館への来館が難しい方は、天竜川上流河川事務所さんなどがインターネット上で公開されているWebサイト「語りつぐ“濁流の子”アーカイブス（URLは、<http://lore.shinshu-u.ac.jp/>）」を是非ご覧ください。このサイトには、三六災害の状況とその復興に関わる情報が、資料区分ごとに検索できる形で数多く公開されています。（宮崎）



←のQRコードを読み取ると、「語りつぐ“濁流の子”アーカイブス」のWebサイトにアクセスできます。